

られる。

四 研究学校の研究成果

昭和三十二年度における研究学校は「別表二」とおりである。

本年度は、県財政の関係上、一出張所管内一校に減ずるのやむなきにいたったので、県教育の重要な課題解決に県教育水準向上のため、事務局において研究主題を設定し、各出張所にこのうちから適宜選定せしめるという方式によって、研究学校を決定した。

なお、兩付属に研究を委託したほか、高等学校には県下五地区に一校宛いづれも県高校教育の重要な課題についての研究をお願いした。

いづれの学校も、全職員協力一致、地域社会の後援と本庁ならびに出張所の指導のもとにりっぱな成果をおさめた。この研究の成果はそれぞれ発表会をもって各管内はもちろん、県全体に発表されている。

昨年度の研究学校の報告書は、予算のつごうにより集録を出すことができなかったもので、教育委員会月報に分割掲載し県内各学校に紹介しその利用をはかった。

各学校の研究が、本県教育水準の向上に大きく貢献したばかりでなく、研究体制強化の中核として大きな役割を果たした。

五 高等学校職員協同研究

本年度における高等学校職員の協同研究実施校は「別表三」とおりであって、各学校とも現場に即した重要問題をとらえて真摯な研究を続け、これをまとめあげて教育実績の向上に努力したことは喜びにたえない。

六 助教諭講習会

教育経験の浅いものあるいは資格の低いものの資質向上をめざす講習の成果は直ちに児童生徒の学力向上、生活指導の向上につながってくる。

本年度は県予算のつごうにより昨年同様各郡市長協議会と出張所の共催により、各管内二か所ずつ実施したが、単位付与をかねずに実施したところが多かった。

七 手びき書の作成

本年度の努力事項の一つである学力の充実をはかるため「小学校授業の進め方を本庁および出張所の指導係全員の分担執筆によって完成した。

▲五版二五六頁(実費一三〇円)六〇〇部印刷して、小中学校はもちろん、中学校・高等学校にも頒布した。

八 小中学校長会の自主的な協同研究

小・中学校長会が全く自主的に、その組織をおして共同研究を行ってつぎの研究物をまとめた。

○小学校長会「学力を向上させるための

学習・行動の評価はいかにあるべきか」

○中学校長会「科学教育の振興」

九 高等学校校長代理研修会

管理職としての校長代理の研修と指導能力を高めるため研修会を開催し「学校

教育指導上の努力事項」の四項目について研究協議を行った。さらにこの研究を各地区ごとに引き続き行って研究をまとめこれを本庁に報告、さらに本庁において検討を加えて、高等学校経営の手びき書を作成して頒布の予定である。

別表一 研究会・講習会の開催状況

月別	会名	開催地	会期	参加人員
五	県社会科研究会総会 改訂中学校職業・家庭科学習指導要 領伝達講習会	福島	一日	二〇〇名
六	音楽講習会(高等学校)	福島	一日	四〇〇名
	東北地区国語教育研究協議会	福大付小・中	二日	四〇〇名
	数学科指導法研究会	福島	二日	一〇〇名
	県理科研究会(実技講習会)	福島二中	一日	五〇名
	県図画工作教育研究会	郡山市金透小	一日	八〇〇名
	東北地区社会科学習指導法研究会	川俣町 福田小・中	一日	三〇〇名
	放送教育研究会東北大会	会津若松市	二日	四〇〇名
七	生活指導研究協議会(高等学校)	福島女高	二日	一四〇名
	理科教育実技講習会(高等学校)	福島	一日	一〇〇名
	東北地区定時制教育研究協議会	平・常磐	三日	七〇名
八	中学校職業家庭科実技講習会	磐城農高 会津工高	四日	六〇名 五〇名
九	高等学校定時制学習指導法研究会	安達高 小野高 平田分校	一日	各五〇名
	小中学校音楽祭県大会第一部(合唱)	郡山市	一日	小中学校教員 生徒児童 一、〇〇〇名
十	山村教育研究会	石川、岩瀬 耶麻	一日	各一〇〇名